



## 消化器疾患を得意とするも 外来では総合診療を行い地域医療に貢献

医療法人福慈会

**福外科病院**

和歌山市



福外科病院（急性期54床、福幸吉院長）は1970年、和歌山赤十字病院（現・和歌山医療センター）の外科部長だった福幸吉氏により創設され、地域に密着した外科病院として地元住民に支持されてきた。現在は、院長の息子である福昭人副院長が経営を継承。「誠心誠意」という病院理念そのままに、患者本位の医療提供に徹する一方、常に一步先の将来を見据え、地域に必要な医療サービスの在り方を模索している。

（上）病棟看護師の皆さん。副院長の方針により徹底した実務主義を貫く同院では、職員1人ひとりが持つ高い能力が自慢。現在は13対1看護だが、人材がそろい次第いつでも10対1看護が取得できるよう、今から10対1と同質の業務内容をこなすようにしている  
（左）JR和歌山駅から車で20分の距離にある、医療法人福慈会福外科病院の外観。現在は消化器疾患を専門とする一方、高齢化が進む地域ニーズに応え内科の慢性疾患にも対応している

## 誠心誠意の医療を実践し 地域に頼られる病院へ

消化器疾患の外科手術や内視鏡検査・治療を得意としながらも、外来では内科疾患全般に対応した総合診療を手掛け、地域医療に尽力。「診療範囲外であれば、僕のネットワークを生かし、患者さんの希望に沿って県内外の病院を探します」

こう話すのは、10年ほど前に創設者の父親の福幸吉院長から病院経営を引き継いだ福昭人副院長だ。副院長が大事にしているのは、同院の理念である「誠心誠意」の心。「患者さんが同院に何を期待し、どういう治療を希望されているのか。常に患者さんの声に耳を傾け、どんなことでも相談してもらえる病院を作りたい」。そのため、和歌山県立医科大学を卒業後、和歌山県立医科大学附属病院および関連病院で研修を積み、専門の消化器疾患にこだわらず、総合診療の技術を身に付けてきた。徹底した患者本位の診療姿勢が評判を呼び、父親の代からの患者や家族はもちろん、今では患者のほとんどがリピーターとなって同院を訪れている。

## ISO9001の取得を通し 職員教育にも力を注ぐ

現在、福昭人副院長は月・水・金曜（午後）は1人で約120人の外来患者を診療し、火・木曜は消化器および一般外科手術や消化器内視鏡検査・治療を行うという超多忙な日々を送る。それでも福昭人副院長は毎朝6時には介護保険申請などの書類作成、事務長・看護師長とのミーティングを実施。その後、看護記録に目を通し、病棟回診をした後、職員と患者について検討会を行う。「検討会では、医師や看護師をはじめ、栄養士、放射線技師、看護師、薬剤師、事務などすべての職員に入ってもらいます。医療の品質を上げるには、定期的な研修会を開くだけでなく、日々の現場を振り返り問題点を探ることが大事。検討会を毎朝の習慣にすることで、1人ひとりの職員が病状の理解と適切で迅速な対応を習得することを最も大切にしています」（福昭人副院長）。また、仕事の効率化による生産性向上と職員の意識改革を狙い、2011年に向けISO9001の



① 外来の医師と看護師の皆さん。外来診療は総合診療を基本としており、そのほか禁煙外来や人間ドックも実施

② 福の里で打ち合わせをする介護ヘルパーさん。入居者に援助や介護が必要な場合は、直営の訪問介護サービスがいつでも受けられるため、入居者にとっては大きな安心だ



取得を目指すなど職員教育には余念がない。

一方、医療の質向上のため、日本大腸肛門病学会認定専門医修練施設、日本消化器病学会認定施設など多くの認定を受けており、外部評価を積極的に利用することで若い医師にとって働きがいのある環境を目指している。

## 将来的には外来専門の クリニックセンターも視野

08年1月、福慈会では病院の施設内に21部屋の高齢者専用賃貸住宅、福の里を開設。開設の動機について、福昭人副院長は「長年診ている患者さんの高齢化に伴い、誰も自宅で診てくれる人がいないという悩みが多く聞かれるようになったんです。だったら、自分の目が届く範囲で引き続き診させていただきたいと思った」と話す。病院に隣接し、何かあればすぐに診てもらえるという点が安心感を呼び、個室20室がすでに入居済みで、そのうち9割が同院をかかりつけにしていた患者だ。ただし、ニーズは高いものの、あくまでも「目



- ③ 福の里の個室の一例(18㎡)。24時間いつでも連絡が取れるよう、部屋には緊急時の通報ボタンを設置
- ④ 病院と同じ敷地内にある高齢者専門賃貸住宅、福の里。1階には、直営の通所介護と訪問介護、居宅介護支援の事業所が入る。現在、21床のうち20床がすでに入居済みで、入居者の9割が同院に通院していた患者だ
- ⑤ 福の里で提供するデイサービスの様子。利用定員は13人で、現在は1日平均10人の高齢者が利用する
- ⑥ 福の里1階部分に設けられた居宅介護支援の事務所。入居者を訪ねる家族に対して心のもった丁寧な対応が印象的だ

の届く範囲」にこだわる福昭人副院長は、「今以上に高専賃について広げるつもりはない」と語る。

一方で今後の目標は、外来機能の強化だという。「今後、大学病院などの公的病院が外来を縮小し、入院部門を強化していくのは明らか。そこで、当院に隣接して各科の専門医が集った外来クリニックセンターのようなものを作り、地元の開業医の先生にも入ってもらいながら、患者さんがあちこち行かなくても診断がつけられるような機能を備えたい」。今後も地域住民の医療ニーズを判断し、自院に求められる医療機能を追求していきたいという。(砂川朋子)



ふく あきと  
**福 昭人** 副院長

当院では「誠心誠意」という理念に基づき、常に目線を患者さんに合わせ、双方の理解と納得のもと診療を行っています。また、私自身、これからも消化器外科医としてメスを握り続けられるよう、患者さんの幅広い医療ニーズに対応しつつ、外科手術が必要なときはいつでも頼ってもらえるような病院でありたいと願っています。

**DATA**

(2010年11月1日現在)

**2008年2月、日本医療機能評価認定機構の認定取得**  
**診療科目**：消化器外科、消化器内科、肛門外科、内科、外科、循環器内科、内分泌内科、放射線科、麻酔科  
**病床数**：急性期54床  
**職員数**：86人(医師4人、看護師27人、薬剤師2人、栄養士1人など) ※常勤換算

**入院基本料**：一般病棟13対1入院基本料  
**平均在院日数**：20日  
**1日平均外来患者数**：85人  
**住所**：〒641-0021 和歌山県和歌山市和歌浦東3-5-31  
**TEL**：073-445-3101  
**URL**：http://www.fukugeka.jp/